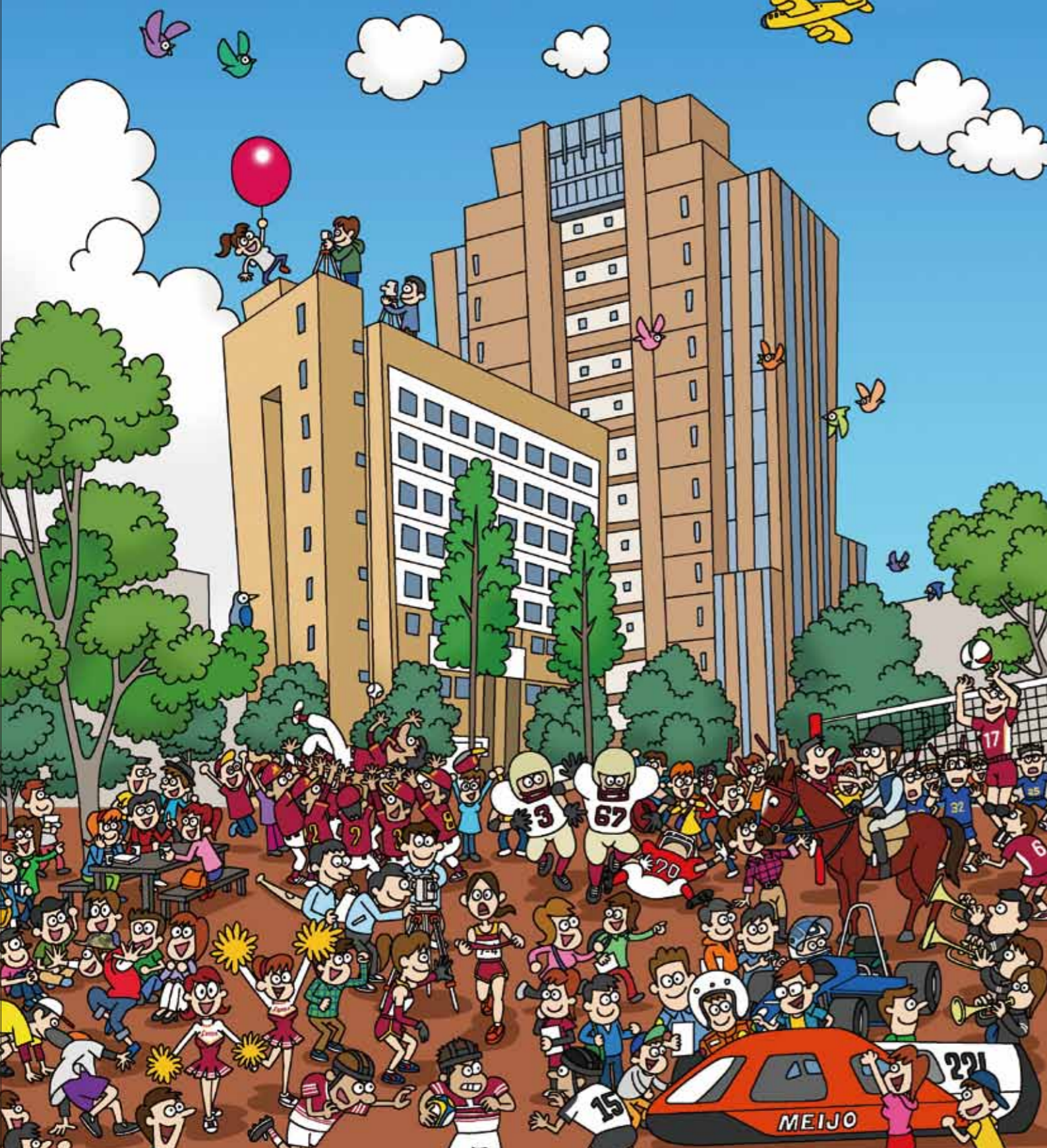


# Scope 44

名城大学工学部後援会 会報誌 **スコープ** 2017



Meijo University  
Faculty of Science and Technology,  
Supporters' Association.



## Scope 44

名城大学工学部後援会 会報誌 **スコープ** 2017

平成29年5月25日発行

[編集] 名城大学工学部後援会 編集担当委員会

[制作・印刷] 株式会社プリアートコーポレーション

[発行] 名城大学工学部後援会事務局

〒468-8502 名古屋市天白区塩釜口1-501

Tel 代表 052-832-1151 (内線 2580)

Tel・Fax 直通 052-831-9214

E-mail jimukyoku@meijo-rikokoen.jp

<http://www.meijo-rikokoen.jp>

名城大学工学部後援会

◀ 検索





技術者のタマゴたちが語り合う

# サイエンス&テクノロジー プチシンポジウム

材料機能工学科 3年  
平岩 恵さん

材料機能工学科 3年  
横井 里奈さん

応用化学科 3年  
鍋井 庸次さん

**H** テクノロジーの進歩や使われ方が、いろいろなシーンで問題視されることがある。なかでも軍事技術は目立つよね。でも、世界の問題って軍事や戦争だけじゃないと思う。例えば、環境汚染や貧困などに対して、どうやってテクノロジーを活用していくのか考えていけるといいのね。軍事利用に向けてという方向性ではなく、エネルギーの創出や発電効率の向上、水をきれいにするシステムなど、そういうところに向かわせることができればと思う。戦争の背後には貧困も絡んでいて、そ

**テクノロジーの活用について  
学生の立場から感じることを  
教えてください。**

現在、数年前には予測できないほど飛躍的にテクノロジーが進歩し、あらゆるシーンで便利かつ快適な生活を送れるようになりました。しかしながら一方では戦争や災害など、さまざま「不安」が国内外で膨らんでいることも確かであり、日々の時事から目が離せない状態でもあります。  
このような現状を、次代を担う技術者でもある現役大学生の目にはどのように映り、何を感じているのでしょうか？今回は、3名の学生に集まっていたいただき、座談会形式で語り合っていました。

ういうところにテクノロジーによって光を当てることができたらいい。テクノロジーは利用の方向性が重要で、表だけにスポットを当てるんじゃなく、背後の問題に対してスポットを当てることで良い結果を導くことができるのかな。  
**N** テクノロジーを使って貧困をなくせば社会は安定するだろうし、争いを防ぐこともできるかもね。  
**H** 結局はテクノロジーを運用する人の問題なんだよね。どれだけその技術を平和のために使うことができるかっていうことは、やっぱり考えなきゃいけない。これからのテクノロジーは、さらに速度を上げて進歩していくから、高度な技術が踏み込んでいい領域についてしっかり話し合わないといけないと思う。



米軍の垂直離着陸機 オスプレイ

次ページへつづく

テクノロジー = 今回の座談会では、科学・化学・工学技術をまとめた単語として使用

## 平成29年度 名城大学 calendar

**4** 2017  
1(土) ● 入学式・新入生オリエンテーション  
3(月) ● 新入生オリエンテーション  
4(火) ● 前期授業開始日  
上旬 ● 履修登録期間  
上旬 ● 健康診断

**7**  
18(火)・24(月) ● 補講日  
7/22(土)~8/2(水) ● 定期試験(予備日8/3(木))  
29(土)・30(日) ● オープンキャンパス(天白)

**8**  
8(火)~17(木) ● 窓口閉鎖期間  
22(火) ● 定期試験成績発表  
28(月)~31(木) ● 追・再試験期間  
未定 ● 夏季集中講義期間

**9**  
7(木)・8(金) ● 追加履修登録期間  
14(木) ● 後期授業開始日  
22(金) ● 開学記念日  
下旬 ● 9月卒業式

**11**  
1(水) ● 大学祭準備  
2(木)~4(土) ● 大学祭  
5(日) ● 大学祭後片付け  
上旬 ● スポーツ推薦入試  
中旬 ● 公募制推薦入試

**12**  
27(水) ● 年内授業終了日  
12/28(木)~1/4(木) ● 窓口閉鎖期間

**1** 2018  
5(金) ● 授業再開日  
9(火)・16(火) ● 補講日  
12(金) ● 大学入試センター試験準備(5時限~)  
13(土)・14(日) ● 大学入試センター試験  
17(水)~25(木) ● 定期試験(予備日1/26(金))  
31(水) ● 入試準備

**2**  
上旬 ● A・F・M入試  
8(木) ● 定期試験成績発表  
中旬 ● B・F入試  
15(木)~21(水) ● 追・再試験期間  
下旬 ● 転学部等試験

**3**  
20(火) ● 卒業式  
下旬 ● 在学生健康診断  
下旬 ● 次年度在学生ガイダンス

最新情報は名城大学ホームページをご覧ください。  
<http://www.meijo-u.ac.jp/>

### 特集

- 02 技術者のタマゴたちが語り合う  
サイエンス&テクノロジー プチシンポジウム
- 05 走る理系女子
- 07 研究の名城 国際展開  
理工学部 2017
- 13 名城大学・光デバイス研究センター
- 14 平成28年度 卒業生インタビュー
- 15 理工ロマンの旅 vol.5  
自動車の原動力の移り変わり

### 後援会の活動紹介

- 17 名城大学理工学部後援会の活動
- 19 フレッシュマンセミナー
- 21 ご父母のための進路セミナー
- 25 地区懇談会
- 29 家庭教育支援セミナー
- 31 学生奨励表彰式
- 33 その他の活動紹介





## 昨今のエネルギー問題や 災害・戦争などについて 皆さんはどう思いますか？

**N** 今は、原子力は完全に負のイメージだよ。グリーンエネルギーと言われていたけど、ウランは枯渇するものなので、一時的なエネルギー源だったのかなって思う。将来的には自然エネルギーでやっていきたいけど、それまでの中継ぎとして原子力があつたのかもね。グリーンかつ枯渇しないエネルギーを実用化していくことが課題かな。

**H** ただ、エネルギー問題においてテクノロジーってそんなに即効性のあるものではなくて、例えば太陽電池だと1畳分だけで1馬力くらい。ハイブリッド車のプラグインが130馬力くらいなんだよ。ソーラーカーは特殊で、軽量を重ねてソーラーカー用のシステムを採用してるから実用にはまだまだ時間がかかりそう。実際今の技術で即効性のあるエネルギー創出は難しいと思ってる。

**Y** エネルギー問題で思うのは、利用者はそれほどエネルギーに関して危機感を抱いていないと思う。温暖化だってそれほど実感できていない。それこそ3・11なんて、テレビで見れば大変なことだとは思っただけ。近所のお寺の方が東北支援の活動をやっていて、それがきっかけで私も東北支援に行ったんです。現地の大川小学

校では、多くの児童が亡くなっていて、実際に現地に行ってみて、はじめて実感が湧いたかな。なかなか人間って直面しないとわからないことが多い。

**H** どうやってたら実感できるんだろうね。  
**Y** ニュースなどで報じられる「津波で〇〇人が亡くなりました」って聞くより、津波からどう逃げたのか、実際に被災した人の話を聞いた方がすごく実感できた。当事者ほどは実感できないと思うけど、津波の怖さや、逃げる大変さを知ってるというのは必要だなって思った。

**H** 体験した人の話を聴くって大切だよ。小学生のとき祖母から戦争の話を聴



災害(イメージ)

## 技術者の「タマゴ」として 「倫理と責任」について どう感じていますか？

に学問として研究を行い、それをいつか社会に役立てたいって志すところ。その志しを防衛・軍事関係で犯してはいけないと思うな。

**H** 学生の立場では自主的に戦争について考えることは難しいかな。やっぱり戦争は身近じゃないんですよ。テクノロジーの平和利用にしても、何が平和なんだって思う。具体的なイメージを持ってないな。大学4年間で学べることに限られているよね。技術者に問われる責任と言われても、実際にその技術の運用を決定するのは組織の上の人だったりする。どこまで技術者が運用について関与できるのか疑問。だから、組織全体の倫理観はとても大切だと思うな。

**H** 技術者倫理の講義で学んだのは、スペースシャトルのチャレンジャー号事件。事前にNASAの開発本部と、オリングという部品を受注していた業者との間で、「当日は気温が低いから危険かもしれない」という話があったのに、何らかの圧力によってNASAが打ち上げを断行した。たぶん経営的・政治的な判断ということだよ。このとき技術者は、「温度耐久性の問題がある」と警告してる。やっぱり組織としての正当な倫理感はずっと持ちたいね。

**Y** いまいち実感が持てないのかな。経営者側は、打ち上げが成功するって思ってたかも。

**H** そうかもしれないね。実際にやってみてわかることってたくさんあるからね。この前、有機ELを作る実験をして青緑の有機ELを作ったんだけど、実際自分が作ったのを見るとすごく感動した。

**Y** ね、そうだよ。その感動は実際やってみないとわからない。

**H** 組織の倫理感を高めるには、企業内の技術者が経営側の問題をちゃんと知っていたり、逆に経営者が技術についてある程度理解していたりする必要がある



戦争が始まって戦地に配属されて…。実際に僕たちは、技術者として兵力になるかもしれないし、最前線で戦うこともあるかもしれない。

**H** 技術者が戦争時に軍事兵器研究に動員されたっていう事実は怖いと思う。

**N** 悲しいな、それは…。自分が開発した技術が人を殺すって。みんな大学や企業で化学や工学を研究をしたいと思ってるけど、何のためかって言ったらやっぱり人の幸せのためだよ。人を殺すためではない。大学で一生懸命勉強したことが、結果的に人を殺してるってなったら…。

**H** アメリカでは軍事にかけられる予算配分はとても大きい。日本も防衛費が過去最高額を更新しているけど、世界的に見るとそんなに多くない。力のある大国が膨大な軍事費を投入してる中、アジア太平洋地域の緊張もあって、日本は防衛のための予算を付けざるを得ないよね。

**N** 軍事研究って、日本でも活発に行われてるよね。防衛省管轄の研究開発部署があつて、防衛装備庁で研究開発してる、防衛大学の研究開発部門でも研究はされている。それを民間や大学にやらせるのかどうか？僕としては、世界情勢として防衛にお金をかけるのも理解できるし、日本もやるべきだと思うけど、大学では防衛・軍事研究はやらない方がいいと思う。それは、大学という場所は純粋

あるよね。

**Y** 高度なシミュレーションが開発されたらどうだろう。コンピュータが今回の打ち上げは「成功する」、「失敗する」って。統計や確立の数値で言われるより実感湧きそう。

**H** マネジメントをA-（人工知能）が行うようになったとしたら、チャレンジャー号をどう判断しただろうね。

**Y** A-だと、人の心の割合が少なそうじゃない。だからクルールに判断されそう怖い。A-の判断だと、チャレンジャー号はきつと打ち上げられちゃうのかな？

**H** でも、A-の判断も結局プログラムするのは人間でしょ。A-に何が善いのか、悪いのか学習させるんだって。例えば男



打ち上げ事故を起こしたチャレンジャー号



の人と女の人を判別させようとしたら、まず鍋井くんをスキャンして男だと教える。次に横井さんをスキャンして、女だと教える。それをいろんな人でたくさんやって、それぞれ共通する点を洗い出す。次に蓄積されたデータとマッチする人が現れたらどちらかを判断して選択する。だから最初にA-に「これがそうなんだ」って教える人間が必要なんだよね。

**Y** やっぱり人間の判断なんだ！

**N** だれかの判断によってできたシステムに、識別や批判されるっていうのは怖いよね。

**H** そうだね。いくらテクノロジーが進歩したとしても、清い心で正しい判断ができる人が活用していかないと、良い社会にはつながらないのかもしれないね。



駅伝という、仲間と力を合わせる経験を通して、人として鍛えられた。

「これまででいちばん思い出に残っているレースは、大学1年のまつえレディースハーフマラソン」と高木さんは言います。ランナーとして、自信がないまま広島の高城から名城大学に進学し、早くも一年目で優勝できたことで、新しい自分を発見できたそうです。その後、数々のハイレベルな大会に出場してきました。

また、教員資格の取得も目指す数学科の学生として学業を大切にしつつ、足の故障に悩まされる時期がありながらも、女子駅伝部の一員として各種大会で好成績を支え続けてきました。

卒業後はユニクロに入社し、平成28年に天満屋へ移籍しました。「将来はフルマラソンにチャレンジしたい」という高木さんが、目標に向けて準備できる環境を考えてのことでした。思った以上にハードな練習で「天満屋の強さの理由はここにあったのか」と実感したそうです。仕事と練習の両立については、「大学時代に勉強と部活の両立で鍛えられたので、忙しさは苦にならない」と言います。

高木さんは今、「故障しない身体づくりを進めています。将来、マラソンでのメダル獲得に期待したいところです。」

# 走る理系女子

学生を理工学部後援会が表彰する学生として女子駅伝部で活動し、表彰を受けた二人の学生の現在を追いました。

めざましい活躍が認められた学生奨励制度。走る理系女子表彰を受けた二人の学生の現在を追いました。

## 高木綾女さん

【表彰年度】平成23年度(1年生)・25年度(3年生)・26年度(4年生)  
 【卒業】平成27年3月 理工学部数学科  
 【入社】平成28年4月 株式会社天満屋 女子陸上競技部 在籍



学生奨励表彰式 (3年生当時)



## 湯澤ほのかさん

【表彰年度】平成25年度(1年生)・26年度(2年生)・27年度(3年生)・28年度(4年生)  
 【卒業】平成29年3月 理工学部数学科  
 【入社】平成29年4月 積水化学工業株式会社 女子陸上競技部 在籍



学生奨励表彰式 (2年生当時)

※平成28年度の学生奨励表彰式の様子は31-32ページをご覧ください。



湯澤さんにとって大学生活で最も思い出深いのは、昨年秋の「第34回全日本大学女子駅伝対校選手権大会(杜の都駅伝)」です。3区を走り、圧倒的な速さで区間賞を獲得して、総合3位に大きく貢献しました。将来はマラソンに転向してオリンピックを目指したいとのこと、今後、実業ランナーとしてのますますの活躍が期待されます。

先輩と後輩との間で、熱い思いは受け継がれていく。

湯澤さんは、今年3月に大学を卒業しました。高木さんと同じく数学科で、教職課程も専攻し、「先生を紹介してもらったり勉強を教わったりしたおかげで無事に卒業できました」と先輩に感謝するとともに、「いろいろな人に出会い、刺激を受けて成長できた」と大学生活をふり返ります。故障で苦しい日々も「周りで応援してくれる人がいるから頑張れた」と感じているそうです。

駅伝は、「襷をつなぐ」というチームプレーです。平成26年の全日本大学女子選抜駅伝競走(富士山女子駅伝)では、当時

4年生の高木さんに「大学最後の大会を悔いなく思いっきり走ってほしい」と襷を渡したと言います。しかし湯澤さんに襷のプレッシャーはなく、大会ごとに全力を出すことに集中していたそうです。

また、女子駅伝部の主将を務めた間は「積極的に話しかけ、みんなの状態を把握するよう努めていた」とのことです。「昨年末の富士山女子駅伝は、直前の故障で出場できませんでしたが、3年生以下で構成されたチームが準優勝を果たし、いよいよ優勝が見えてきました」と後輩に期待を寄せる湯澤さんです。



高木さんにとって今まででいちばん悔しかったレースが、大学4年の「第32回全日本大学女子駅伝対校選手権大会(杜の都駅伝)」でした。「私がいかに走りができていたら、もっと上位の成績も狙えたのに」とふり返ります。今も名城大学女子駅伝部と後輩の走りを心から応援し、「私の大学でのレース記録を抜かれるとしたら、名城大学の後輩に記録を書き換えてほしい」と語る高木さんです。



# 研究の名城国際展開

## 理工学部2017

11学科の学びと教養教育のご紹介

「研究の名城」として、  
社会に貢献できる人材を養成。

先ごろ「青色LEDを起点とした新規光デバイス開発による名城大ブランド構築プログラム」が、文部科学省の私立大学支援事業に選定されました。北陸・東海地区で選ばれたのは本校のみです。これを受けて「名城大学・光デバイス研究センター」を創設し、次なるノーベル賞受賞につながる研究を深めようとしています。同時に理工学部全体がますますの教育・研究の質の向上を図り、「研究の名城」ブランドを国際的に展開していく所存です。



名城大学理工学部 学部長  
加鳥 裕明

### 教養教育



研究に際して  
多角的な視点から  
物事を捉え、考える  
ベースの力を養う。

教養教育長 田中 義人

高校までは、すでに明らかにされた事象を学ぶことが中心でした。これに対して大学は、ことに理系分野は、未だわからないことを研究によって解明しようとする場です。大学生には、自ら考えて解決する力を身につけることが求められます。教養教育

では、数学・物理・化学・英語を中心に、専門的な研究に進む際の基礎力を身につけつつ、人文科学や社会科学ほか幅広く学び、多角的な視点で考える力を養います。「人としての豊かさ」は将来、社会人としての人生を乗り切るものにしていくでしょう。

### 数学科



数学を通して現実世界を見渡し、問題解決へと導く論理的思考力を育む。

学科長 江尻 典雄

本学科では、数学を系統的に学べるように代数学・解析学・幾何学・数値情報・計算機科学の5分野のカリキュラムを組んでいます。広くて深い学問である数学を通して養う論理的思考力は、様々な場面で役立つことでしょう。そのため、志望者が多い数

学教員以外にも、数学的な思考力を備えた人材を求める企業など幅広く活躍のチャンスがあります。数学の講義で多くの数学の言葉を学ぶため、1回の欠席がその後の負担になりかねません。規則正しい生活で日々の講義や研究と向き合ってください。

#### 研究室 PICKUP



#### 長郷文和 研究室

様々な力持ちの本質を考える

数学の一分野である「トポロジ（位相幾何学）」をテーマとする研究室です。見た目の情報にとらわれず、モノのつながり方やカタチの本質を考えるとどうトポロジの観点に立つと、「マグカップとドーナツは本質的に同じもの」に分類されます。研究室では、立体模型や平面図などをもとに、学生たちが互いの意見を交わし合います。学生たちは、物事の本質を捉えようとする視点と論理的思考力に加え、自分の考えを整理して言葉で説明する能力も身につけています。

### 情報工学科



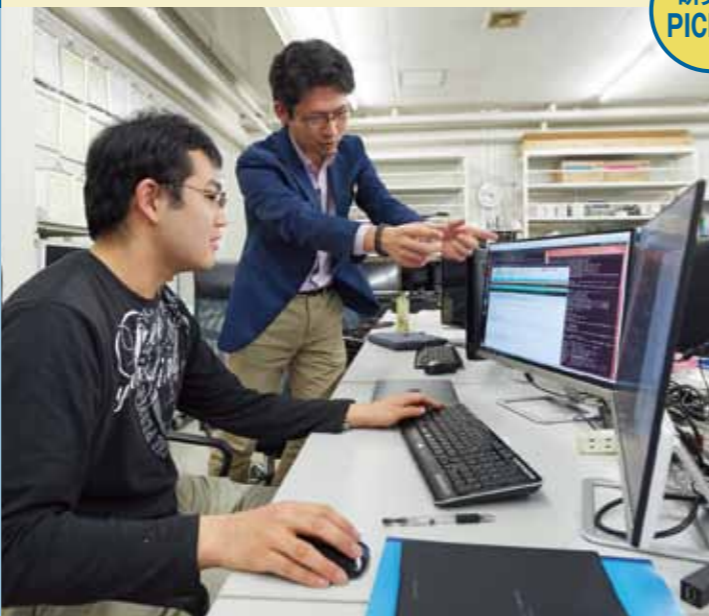
今や情報工学は、産業のみならず社会生活を機能させる上で不可欠な存在です。本学科では、広大な情報工学の分野を系統的に習得できるよう、プログラム制を導入しています。学生は個々の目標に応じたプログラムに従って学習でき、複数のプロ

研究に積極的な学生を徹底サポートする体制を充実させる。

学科長 柳田 康幸

グラムを選ぶことも可能です。また「ハッカソン」「アイデアソン」といったシステム開発等を競う学外イベントへの参加を積極サポートするプロジェクトもスタートさせています。アイデアを力持ちにする「研究の面白さ」を、ぜひ実感してください。

#### 研究室 PICKUP



#### 鈴木秀和 研究室

ユビキタスネットワーク社会を推進

ユビキタスネットワーク社会とは、「いつでも、どこでも、何でも、誰でも」ネットワークに接続して情報をやりとりできる便利な世の中です。研究室では、こうした環境で求められる通信スタイルの実現に向けた研究開発を行っています。他大学や企業との共同研究を積極的に進めており、スマートフォンを使った安全な家電の遠隔制御や地域バスの運行状況を確認するシステムなどを具体化しています。学生たちは研究を通じて最先端の知識・広い視野と議論する力などを身につけています。

### 電気電子工学科



電気電子技術は、現代社会において重要な基盤技術です。家電製品をはじめ情報通信や、クリーンな太陽光などエネルギー分野、車などの輸送機器や食品・医療関連機器ほか多様な分野に関連し、社会の進展には電気電子技術がますます必要不可欠と

さまざまな分野への進出を可能にする基礎力・応用力を養成。

学科長 伊藤 昌文

なっています。本学科では電気電子の基礎から応用までを学び、実社会で役立つ力を身につけます。またグローバルな活躍を視野に、短期の海外研修プログラムなども整えつつあります。ぜひ大学院に進学し、研究を深めてもらいたいと思います。

#### 研究室 PICKUP



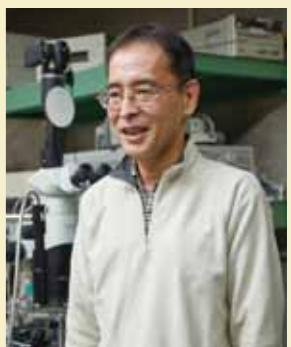
#### 村本裕二・村上祐一 研究室

電気エネルギーの有効活用

本研究室は「エネルギー」「環境」「材料」に関係するテーマの研究であれば分野に関わらず何でも取り組んでいきます。主な研究は植物油を用いた電力機器絶縁の構築、極低温誘電体材料の機能性向上、高電界パルスによる大腸菌殺菌、藻からの化石燃料の抽出など研究テーマは多岐にわたります。今後とも新たなテーマを次々と探していく方針です。農学部とも連携するなど自由な研究環境のもと、学部生から博士課程後期の学生たちも積極的に研究に取り組んでいます。







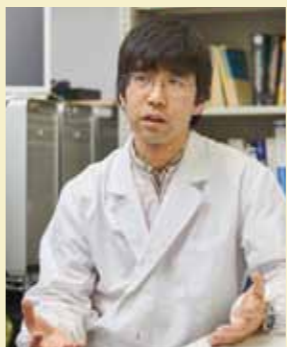
本学科では、LEDやナノカーボンなどの新材料から機能性材料、生体材料まで幅広い領域にわたって研究しています。理工学部の他学科や農学部、薬学部とも連携し、諸課題の解決にも取り組みます。公開講座で一般向けに研究を解説するなどの機

エネルギーなど  
世界的な問題解決に向け  
技術者、研究者を養成。

学科長 上山智

会を通じて、学生たちは自身の研究の重要性を再認識することもできるでしょう。国際的な視点からの人材育成プログラムや企業との共同研究の機会もあります。大学院で研究を深め、社会で活躍できる人材へと成長してもらいたいと考えます。

応用化学科



自動車ほかあらゆる工業製品は物質材料の化学的な特性を活かして作られています。化学は、原子や分子の結合に注目してその構造を探ったり、化学反応によって新たな物質を生み出していく学問です。本学科では「合成化学」「物質・材料化学」「環境・

化学に基盤を置く  
材料開発の新しい  
テクノロジーを追求。

学科長 永田央

エネルギー材料」の3領域を設置し、化学に立脚した学びを展開しています。さらに今後、「エネルギー」「環境」をキーワードに、化学の知識に基づいた新技術の開発につながる研究を展開し、広く社会に貢献できる人材を育成したいと考えます。

機械工学科



機械工学は、自動車・鉄道航空機・工作機械・医療・環境・エネルギーなどあらゆるモノとサービスに関わり、社会基盤を担っています。また近年、第4次産業革命といわれるまでに機械工学と情報との融合が進み、IoTモノのインターネット)が広がっています。

メカニカルエンジニアとして  
自ら考え、積極的に  
行動できる人材を育成。

学科長 藤山一成

こうした中、本学科では日本の強みである「モノづくり」を支えるべく、体験による実感を伴う知識を吸収できるカリキュラムを組んでいます。学部では企画・設計・製作・評価サイクルを通して問題発見・解決力を育て、大学院ではより高い専門性を身につけます。

交通機械工学科



東海地区は、自動車、航空機、鉄道車両等の交通機械の製造開発で日本をリードするエリアです。そして、交通に軸足を置いた「交通機械工学科」は、全国的にも稀な存在です。本学科ではモノづくりに必要な機械工学の基礎学力と応用技術に加えて、交通機

社会に貢献できる  
交通機械の  
優れた技術者を育成。

学科長 鈴木昌弘

械を取り巻く環境や安全問題に対応できるセンスも身につけた機械技術者の育成を行っています。50年にわたる歴史の中で、多くの人材を輩出してきました。今後、社会でより活躍するために、研究を深めて専門性を高められる大学院進学もぜひご検討ください。

研究室 PICKUP



成塚重弥 研究室

半導体材料の研究を推進

今や半導体は、パソコン、スマートフォンなどの通信機器や家電製品から自動車などまで、あらゆる分野において電気製品に使われています。電子部品のほとんどは、シリコン、砒化ガリウムなどの半導体結晶でできています。成塚研究室では、様々な半導体材料の「結晶成長」に取り組んでいます。「世界の誰もやっていない作り方で新材料を」という意気込みのもと、学生たちは成長装置等を使って結晶成長の実験・分析作業などを行い、研究に邁進しています。

研究室 PICKUP



丸山隆浩 研究室

カーボンナノチューブの結晶成長

カーボンナノチューブとは、炭素原子が網目のように結びついて筒状になったもので、軽量・高強度・柔軟などの特性を持つ新素材として各方面から期待されています。炭素の配列など構造を変えることで、強度や導電性などの性質が大きく異なることから、丸山研究室では、様々なカーボンナノチューブを作製し、成長させる試みを重ねています。学生たちは、自分たちの手がけたものが未来の新素材となる期待を胸に、日々、実験・分析に取り組んでいます。

研究室 PICKUP

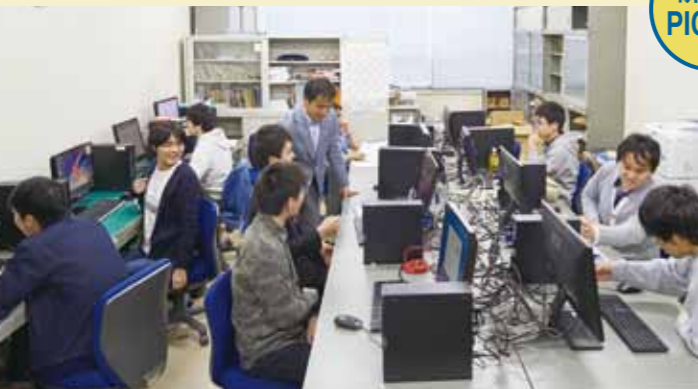


ペトロス・アブラハ 研究室

自由闊達な意見交換で研究に邁進

アブラハ研究室では、プラズマを用いた表面処理加工を研究しています。これまでに同研究室では、工具などの耐久性を高め、コスト削減につながる高速で低電力の窒化処理を実現しました。現在も、自動車や電子機械などの製造現場に役立つことを目的に、広い表面積を均一に加工可能にする技術やマシンの開発に取り組んでいます。アブラハ研究室は教授と学生の活発なディスカッションも特長のひとつで、学生たちは海外の学会での発表の機会も得て成長しています。

研究室 PICKUP



菅野望 研究室

研究を通じて宇宙開発事業に貢献

菅野研究室では、人工衛星などの宇宙機の推進や姿勢・軌道制御に用いる「スラスタ」における燃焼過程について研究しています。宇宙空間では、素早い着火・燃焼性、軽量で故障しにくいことなどが求められます。燃焼用成分の配合や着火のタイミングなど燃焼現象を高精度に制御する必要があり、様々な推進薬や燃料について、化学構造の違いに注目しながら実験計測、分析や検討を行っています。現在、JAXAや大阪大学との共同研究も進めており、新たな提案ができることを目指します。





メカトロニクスの思考で  
新たな機械を  
創造する人材を養成。

学科長 楊 剣鳴

メカトロニクスは、日本の産業を支える重要な技術です。本学科では電気機械制御コンピュータなど各分野と連携した教育で、俯瞰的にシステムを捉えられる「メカトロニクスの思考」の人材を養成しています。今年度より大学院が開設し、研究体制がより

充実しました。また学部生も1年次からロボコンに参加するなど研究に意欲的です。電気機械融合機械や、ナノマイクロ技術を用いた医療機械など、新しい機械を創造する設計能力を備えた将来のリーダーに成長することを期待します。

社会基盤デザイン工学科



技術者や公務員として  
建設分野の最前線で  
数多くの先輩が活躍。

学科長 葛 漢彬

本学科は、「ハイテクリサーチセンター整備事業」により高度な設備を整えてきました。こうした環境下で学生たちは研究・発表に果敢に挑み、学部生で一流学術誌に論文掲載し、院生が様々な優秀研究発表賞を受賞しています。国際感覚を養う「グ

ローバルインターンシップ」なども整えています。安心・安全で持続可能な社会をデザインし創り上げて守りゆく「シビルエンジニアの育成」を目指しており、専門性を高めて社会でハイレベルな活躍をすべく、大学院への進学をお勧めしています。

大原賢一研究室

人を支援するロボットの研究・開発



ロボットは、機構・アクチュエータ・センサ制御回路・ソフトウェア・ネットワーク技術など、様々な技術を統合したシステムです。現代社会において働くロボットの実用化が進みつつある中、大原研究室では、ロボットシステム全体の開発を進めるとともに、住宅メーカーや産業機器メーカーと共同で、多様なロボットの開発を進めています。学生たちは、共同研究相手や学会などでの成果発表を通して、「社会に通じる人材」としての能力を身につけています。

中村一樹研究室

快適・安全に「歩ける街」をデザイン



今春着任した中村一樹准教授は、都市交通計画と都市デザインを専門としています。中村研究室では、例えば道づくりにおいて、機能や効率の観点から出発点と目的地を結ぶだけでなく、安全性や快適性なども考慮した道の計画や実現に向けての取り組みを研究します。歩きやすい空間づくりは、街の経済的な活性化のほか、歩く人の心や体の健康改善により生活の質の向上につながります。研究室では、バーチャルリアリティによる歩行環境の体感評価なども行っています。

環境創造学科



持続可能な社会の進展に  
貢献し、次代を  
リードする人材を育成。

学科長 道正 泰弘

「21世紀は環境の世紀」と言われます。環境を取りまく様々な課題への関心が高まる中、環境創造学科では、基礎学力を重視した指導を行い、独自の教育プログラムに基づいて研究活動を展開しています。また今後、エネルギー・資源循環分野をより

充実させるべく、平成32年度以降のカリキュラム変更を計画しています。技術士(環境部門)など各種資格取得や、専門性を高める大学院進学への支援も充実させており、持続可能な社会に貢献し、広く社会で求められる人材の育成に注力しています。

垣鍔直研究室

健康で最適な条件などを探る



建築環境工学や、気象現象が生物に与える影響を探る生気象学を中心に、人と環境について幅広く探求している研究室です。省エネでサステイナブル(持続可能)かつ快適な社会づくりのため、人工気候室を用いて温度・湿度による人体の変化についての計測なども行っています。学生たちは、オフィスの照明と作業効率の関係や、湿度が人体に与える影響など、それぞれの研究テーマを設定し、互いに意見交換をしながら実験・分析を重ねて卒業研究に取り組みます。

建築学科



広い学問領域を通じて  
多角的な観点から  
思考する習慣をつける。

学科長 寺西 浩司

建築の学問領域は、エンジニアリングからアートまでの幅広い分野にわたります。本学科では、40代を中心とする業界の最先端で活躍中の教授陣が研究活動をリードしており、建築分野に関わる幅広い領域の基礎知識を修得していきます。これは将来、

専門分野のみ強い職人ではなく、大学教育を受けたゼネラリストとして、より高いレベルで活躍してもらいたいと考えるからです。学生には、多様な価値観を認め合い、物事を常に多角的な視点から思考する習慣を身につけてほしいと願っています。

寺西浩司研究室

建築の基盤である材料に着目



寺西研究室では建築の材料と生産(施工)を専門としており、特にコンクリート材料についての研究を中心に行っています。日常の研究活動は、コンクリートのひび割れを調べるなど学内での実験と解析を中心としています。新建材のイメージがあるコンクリートですが、すでに日本で百年にわたる歴史があります。そのため、古い建築物の維持・保全の方法を考えるための調査も研究テーマのひとつで、世界文化遺産となった軍艦島を調査するなど、フィールドワークも積極的に実施しています。





# 名城大学・光デバイス研究センター



新設された「光デバイス研究センター」が入る14号館

「次代を照らす新たな光」となる  
レーザーダイオードの開発に取り組む。

このたび、名城大学の理工学部を中心とするプログラムが、文部科学省の平成28年度「私立大学研究ブランディング事業（世界展開型）」の支援対象に選定されました。このプログラムによって、青色LEDを発展させた新たな光デバイスの研究開発が強化されます。同時に、研究の経過や成果を一般に向けて広報し、社会に貢献できる人材を育成する名城大学の研究の重要性を広く発信していくことも、本プログラムの狙いです。

研究拠点となるのが新設の光デバイス研究センターです。センター長の竹内哲也教授（材料機能工学科）からは、次世代型光デバイスであるレーザーダイオード（LD）を安定的に生み出す研究に取り組んでいます。

幅広い産業分野での活用が期待される  
レーザーダイオードの研究を進展させ、人々に伝える。

電気を単一の光に変えるLDは、波長にばらつきがなく制御しやすいのが大きな特長です。そのため、高効率・高機能照明以外にも、医療用機器や情報機器など、幅広い分野への利用が期待されます。当センターはクリーンルームや実験室を備え、新しい結晶を製作する装置も導入し、産学連携の研究も進められる予定です。ノーベル賞受賞の赤崎勇終身教授も、「研究者や学生の皆さんが英知を結集し、次世代デバイスを作り上げてほしい」と語っています。本プログラムでは、成果だけでなく研究姿勢を伝えることも目的としており、シンポジウムや高校での講義・実験を予定しています。



①名城大ブランド構築プログラムと「光デバイス研究センター」の新設を記念したシンポジウムが3月27日に開催された。右から、名誉センター長に就任した赤崎勇終身教授のあいさつ、来賓の天野浩特別栄誉教授のあいさつ、高校生たちに講演をする竹内哲也教授。  
②プログラムのスタートと並行して校友会館に新設された「赤崎・天野ノーベル賞記念展示室」には、青色LEDの開発やノーベル賞受賞を解説したパネルを展示。大学の講義日の10時から16時まで一般公開している。

## 就職

アイシン・エイ・ダブリュ株式会社  
佐藤千晴さん  
材料機能工学科 卒業



興味・関心に応じて  
幅広く学び、希望通りに就職。

金属やプラスチックなどの材料物質や半導体についてのほか、幅広く学べて充実した大学生活でした。個人的には「材料機能工学実験」が印象深いです。初めて触れる本格的な実験装置や、レポート作成の大変さなどを通して、理系学生としての基礎知識を身につけることができました。

以前から自動車が好きだったことから、自動車関連メーカーを中心に就職活動を行いました。親は、就職活動には特に口を出さずに見守ってくれてありがたかったです。また、大学の就職支援体制は大変心強く思えました。就職先は、環境にもやさしいハイブリッドトランスミッション製品を生み出している会社で、魅力を感じています。できれば将来、新製品の開発に何らかの形で携わりたいです。

## 卒業生インタビュー

平成29年3月17日、愛知県体育館において平成28年度の卒業式が挙行されました。早春の陽を受けて晴れやかな卒業生たちと、その姿を温かく見送る先生方、ご父母の皆さんが印象的でした。卒業後のさらなるご活躍に期待します。



専門性をより高めて、  
社会に役立つ橋をかけた。

高校時代に起きた東日本大震災が、将来について思い巡らすきっかけとなりました。「どうしたら人を助けることができるのか」と考えた結果、社会基盤について学ぶことが重要だと気づき、選んだのが社会基盤デザイン工学科です。大学では橋の構造を主に学びました。コンペに参加し、熊本や群馬などを訪れたのも貴重な思い出となっています。

専門を活かして社会で活躍するためには大学院に進学してもっと学ぶ必要があると考え、父に相談すると「悔いのない道を選べ」と言ってくれました。自由にさせてくれてありがたく思います。大学院では、揺れを最小限に抑える制震や、地震後にいち早く使える橋づくりについて研究する予定です。将来は橋梁設計に携わりたいです。

## 進学

名城大学大学院理工学研究科  
浅井駿弥さん  
社会基盤デザイン工学科 卒業





# 自動車の原動力の移り変わり

今や私たちの生活に欠かせない自動車。その歴史をたどってみると、先人たちの情熱や飽くなき挑戦が見えてきます。現在、自動車が快適に走るのは、長年に渡り積み重ねられてきた数々のサイエンス・テクノロジーによるものであり、この先もさらなる発展を遂げていくことでしょう。今回は自動車の『原動力』に焦点をあて、年代を追って見てみましょう。

【出展・参考書籍】  
© Erik Eckermann 著/松本廉平 訳『自動車の世界史』(グランプリ出版)  
© 石川憲二 著『電気自動車が一番わかる』(技術評論社)

## 蒸気機関

**1769年**  
蒸気機関式自動車を発明  
(フランス/キュニョー)

## 石炭内燃機関

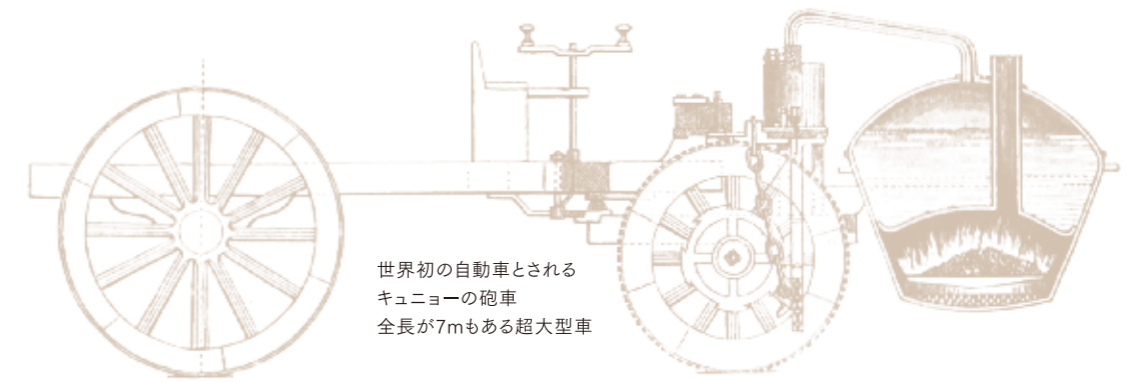
**1801年**  
石炭ガス・エンジンを発明  
(フランス/ルボン)

## 電気モーター

**1832年頃**  
イギリスのロバート・アンダーソンがモーターと簡単な電気自動車を発明

**1842年**  
実用的電気自動車を発明  
(アメリカ/ダベンポート)

**1873年**  
イギリスのロバート・ダビッドソンが鉄垂鉛電池(1次電池)による実用電気自動車を開発



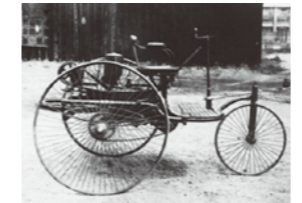
世界初の自動車とされる  
キュニョーの砲車  
全長が7mもある超大型車

**1881年**  
フランスのカミーユ・フォーレがプランテの電気自動車を改良し実用化に成功

**1884年**  
ガソリン自動車を開発  
(フランス/ドゥブートヴィルとマランダン)

## ガソリンエンジン

**1886年**  
世界初のガソリンエンジン  
三輪自動車を製造  
(ドイツ/ベンツ)



## ディーゼルエンジン

**1893年**  
ドイツのルドルフ・ディーゼルによってディーゼルエンジンによって理論的基礎が築かれる

**1896年**  
世界初のハイブリッド車  
エンジンで発電した電気でモーターを駆動させる車をボルシェが設計しその後、ローナーが作り上げる

## ハイブリッド



**1897年**  
ディーゼルが、はじめて実動するディーゼルエンジンのプロトタイプを製作

1897年 ロンドンとニューヨークで電気自動車のタクシーが走る  
1898年 パリで世界初の自動車ショー  
1908年 フォードT型生産開始  
1920年 ドイツのヤーライが自動車の空気力学の科学的研究をする

## ディーゼルエンジン

**1922年**  
ディーゼルエンジン自動車による  
テスト走行に成功  
(フランス/プジョー)

- 1922年 シートベルトがはじめて自動車に搭載される
- 1929年 乗用車に同期(シンクロ)式変速機導入(GM)
- 1940年 乗用車に自動変速機搭載(GM)
- 1948年 ラジアルタイヤを開発(ミシュラン)
- 1952年 アメリカのヘトリックが安全クッション(エアバッグ)を設計

## ロータリーエンジン

**1957年**  
ロータリーエンジンを開発  
(ドイツ/ヴァンケル)



- 1959年 3点式シートベルトを発明し特許を取得(ボルボ)
- 1978年 ABS(アンチロック・ブレーキシステム)の普及がはじまる(ポッシュ)
- 1981年 エアバッグの普及がはじまる
- 1991年 GPS併用ナビゲーション本格普及

## ハイブリッド

**1994年**  
市販乗用車で世界初の  
ハイブリッド車を発売  
(ドイツ/アウディ)



1995年 横滑り制御車販売

## 電気モーター

**1997年**  
実用量産型ハイブリッド車  
「プリウス」を発売  
(日本/トヨタ自動車)

2003年 トヨタ自動車が衝突被害軽減ブレーキを搭載した車を販売

## プラグインハイブリッド

**2012年**  
航続距離200km超の電気自動車  
「リーフ」を発売  
(日本/日産自動車)

2010年 富士重工スバルが自動ブレーキ機能「アイサイト」を搭載した車を販売

## 燃料電池水素

**2012年**  
200Vコンセントから充電できるハイブリッド車  
「プラグインHVプリウス」を発売  
(日本/トヨタ自動車)

**2014年**  
量産型として世界初の  
セダン型燃料電池自動車  
「MIRAI」を販売  
(日本/トヨタ自動車)

## ガソリン車より歴史がある?! 電気自動車の成り立ち

電気自動車は、「ガソリン自動車に代わる未来の乗物」というイメージが強いせいか、近年になって発明されたものだと思っている人が多いようです。しかしその歴史は古く、1832年～1839年にイギリスのロバート・アンダーソンが電池とモーターによる「自動車らしきもの」を作ったのが最も古い電気自動車とされていますが、まだ実用的なものではなかったようです。それでも1840年代には実際に道路を走行できる電気自動車が登場し、馬車に代わる交通機関として注目を集めました。

▶ 当時の電気自動車とみられる写真



1859年にフランスのガストン・プランテが、「充電して再利用できる蓄電池」を発明し、6年後にそれを電源とした電気自動車を完成させました。プランテの考えた鉛蓄電池は、今でも自動車用バッテリーとして使われているものと同じ仕組みですが、開発当初は性能が低く、充電容量が少ないだけでなく、すぐに劣化して使えなくなりました。しかし1881年に同じくフランスのカミーユ・フォーレが改良型の鉛蓄電池を開発したことによって、電気自動車は大幅に走行距離を伸ばすことになります。それにより電気自動車は繁栄への道を築いていきます。

一方、実用的なガソリン車は1886年頃にドイツで誕生したものが第一号\*だといわれているので、電気自動車のほうが歴史はずっと古いことがわかります。(※ 諸説あり)

これらの開発を日本の歴史と絡めてみると、電気自動車は江戸時代後期、ガソリンエンジンは明治時代となり、自動車技術の礎を築いた欧州の技術者たちはとても優れていたことが伺えます。しかしながら現在では、日本の自動車技術は世界のトップを走っており、日本の技術者たちの巻き返しには驚きを隠せませんね。



# 名城大学理工学部後援会の活動

大学創立100周年に向けての  
1年目となる今年度、  
より魅力的な後援会を目指していきます。

平成29年度会長に選出されました寺西でございます。後援会会員ご父母の代表として、微力ながら今年一年がんばってまいりますので、よろしくご支援・ご協力いただきますよう、ここにお願いいたします。

昨年は名城大学創立90周年、そして当理工学部後援会創立40周年という記念すべき年でもありました。41年目という今年度ですが、大学創立100周年に向けての1年目となります。伝統を重んじつつ、全国の大学における後援会の先頭を行くような活動を推進し、会員の皆さまにご満足いただける活動を展開していきたいと思っております。当会では専用の事務局も設置し、常勤の職員もおりますので、ご子弟に関する些細なご相談などでもぜひ後援会を利用していただきたいと思っております。

後援会では、1年生が入学されてすぐのフレッシュマンセミナーに始まり、卒業時には卒業パーティーの援助や卒業記念品の贈呈まで、後援会活動は入学から卒業まで幅広い支援を行っています。会員ご父母の皆さまに対しましては、地区懇談会・家庭教育支援セミナー・ご父母のための進路セミナーなどさまざまな行事もあります。ご参加いただければきっと皆さまと大学との距離も縮まることでしょう。役員・委員とともに、「昨年度より今年度はより魅力的な後援会になった」と皆さまに実感いただけるような後援会にしていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。



平成29年度 理工学部後援会 定期総会



名城大学理工学部後援会  
会長 寺西 正明



5 学生奨励表彰式 P31



3 地区懇談会 P25



1 フレッシュマンセミナー P19



6 その他の活動紹介 P33



4 家庭教育支援セミナー P29



2 ご父母のための進路セミナー P21

## 後援会の組織図

平成29年度  
理工学部後援会  
専門担当委員会  
会長 寺西 正明

|   |  |
|---|--|
| <b>企画担当委員会</b><br><b>役割</b> 後援会を運営するための予算編成と事業計画を推進する<br><ul style="list-style-type: none"> <li>● 予算編成 ● 会則 ● 定期総会</li> <li>● 地区懇談会 ● フレッシュマンセミナー</li> <li>● ご父母のための進路セミナー</li> </ul>                             | <b>委員長</b> 鶴田 英孝 <b>副委員長</b> 逸見 英治<br><b>委員</b> 長谷川 清 山村 和彦 鈴木 宏康<br>藤村 志郎 小田原 俊二 伊藤 一男 山下 隆宏<br>森 久元 柏田 淳一 榊原 正己 津田 義憲<br>佐渡 直隆 伊藤 弘人 有本 昌伸 廣畑 洋祐<br>近藤 博之 伊藤 嘉浩 坂根 安則 関島 憲一<br>柴田 眞佐夫 阿知波 孝文 鈴木 規夫 中根 正喜<br>三好 強     |
| <b>編集担当委員会</b><br><b>役割</b> 後援会自主活動の報告並びに学部の状況を会員に周知させる<br><ul style="list-style-type: none"> <li>● 理工学部紹介DVDの制作について</li> <li>● 後援会会報誌「Scope」の発行について</li> <li>● 後援会ホームページの制作について</li> <li>● 個人情報保護について</li> </ul> | <b>委員長</b> 鍋井 英雄 <b>副委員長</b> 河田 直英<br><b>委員</b> 澤田 高志 田口 武彦 大島 正敬<br>菊地 定昭 伊藤 公一 葛山 稔晃 国保 久一<br>成田 吉男 岡島 淳二 錦木 幸男 高村 和治<br>服部 武男 三輪 恭久 鈴木 成一郎 滝澤 昇一<br>平田 裕一郎 和田 文三 田財 明 森 義則<br>加藤 稔 平山 善健 加藤 裕一 中野 稔久<br>坂本 庄司 幸村 信樹 |
| <b>福利厚生担当委員会</b><br><b>役割</b> 後援会として学生に援助し得る福利厚生事業を推進する<br><ul style="list-style-type: none"> <li>● 学生育英救済制度実施 ● 災害見舞金制度実施</li> <li>● 学生奨励制度実施 ● 家庭教育支援制度実施</li> <li>● 学生課外活動援助</li> </ul>                        | <b>委員長</b> 水野 修 <b>副委員長</b> 宮之上 昭彦<br><b>委員</b> 齊藤 久也 中村 実加 佐野 錦司<br>高井 清和 一戸 総子 澤田 貴徳 加藤 淳一<br>小島 久直 加藤 広和 金住 健一 若山 浩三<br>市川 幸和 永富 和幸 太田 啓文 深尾 泰弘<br>渡邊 良夫 水谷 吉文 船戸 繁 牧野 研二<br>川嶋 洋介 大橋 啓之 菊田 光 石川 武彦<br>西島 耕治        |

## 後援会の基本姿勢

- 1 学生への支援第一主義  
あくまでも学生への支援を第一に考えております。そして次にご父母への還元、さらに理工学部の教育・研究への援助を基本としています。
- 2 ご父母と大学・学部とのパイプ役  
大学や学部とは連絡を密にして、協調し、ご父母と大学・学部との間のパイプ役となります。また、さまざまな行事を通じて在学中のご子弟に対する不安を解消することを図っていきます。
- 3 ご父母の目線での活動  
常に会員であるご父母の目線で、またご父母の要望に耳を傾け、活動に反映していくことを目指しています。
- 4 理工学部に関係する諸団体との連携強化  
理工同窓会・技術士会等、諸団体と連携を密にして、後援会活動の多角化を図ることを目指しています。



## 新入生対象 セミナー開催目的

- 1 一つのテーマについて各グループで議論し、自分の考えを伝えるとともに、相手の意見を受け入れる協調性を養います。
- 2 共同作業を通じて意欲をもって主体的に勉学をするきっかけをつくります。
- 3 信頼できる友人関係を形成することで大学生活への不安を払拭させます。

## 集合



**入** 学後、徐々に友人ができてきましたが、まだまだ同じ学科に所属していても話したことのない人が大半です。1泊2日のセミナーに不安もありますが、この機会に多くの人と交流できるチャンスが広がれば良いと期待しています。

# フレッシュマンセミナー

## 4年間の大学生活をより充実させるために



大学内で学生生活の心構えについてレクチャーを受けた後、三河湾のホテルに移動します。1泊2日を共にすることで“仲間”とのつながりや教員とのコミュニケーションが生まれます。

## バス出発



**セ** ミナー I では、人の目を見て話すことやコミュニケーションの重要性を再認識できました。移動のバスの中では、さっそく仲間との交流を図り、楽しく過ごせそうです。到着してからのセミナー内容も楽しみにしています。

## マナー講座

**セ** ミナー I では、表情が相手に与える印象についての話が特に心に残りました。これまでも「あいさつ」は心がけていましたが、特に目上の方とのやりとりなど、今まで以上にマナーに気を付けるようにしたいと思います。



**セミナー I**  
充実した学生生活のために「大学生としてのマナー」  
講師の指導のもと、人に与える印象の重要性について学生同士で実際にチェックしながら理解を深めました。また、メールで先生に質問する際の注意など、必要となる心構えについても考えました。

## ホテル到着



**理** 系女子は少ないですが、移動の車中では少数派が集まって「女子トーク」に盛り上がり、結束力が高まりました。「期待半分、不安半分」のセミナーですが、ホテルに到着した今、多くの仲間との友好関係を築きたいと思っています。



freshman seminar

**コ** ンセンサスゲームを通して、これまで接する機会がなかった人と打ち解けて話すことができたのが良かったな。

## ホテルの部屋で

## 夕食タイム

**た** また夕食の席で隣同士になるのも、初めて話す良いきっかけだね。献立もいろいろバランス良く、大満足だよ。

**新** 鮮なお刺身をはじめ魚料理、肉料理、デザートまであって嬉しいね。しっかり食べて、充実したセミナーにしよう！



**一** 人ひとり違う考え方があつものだなと改めて思ったよ。こういう機会に恵まれて、とても楽しいね。



**セミナー II**  
コミュニケーションを図る「コンセンサスゲーム」  
与えられた課題について、まず自分で考えた後、チームの合意(コンセンサス)を導き出すのが「コンセンサスゲーム」です。話し合いを通じて初対面のチームメンバーとの一体感も生まれました。



**セミナー III IV**  
話す、聞く、まとめる、発表する「グループディスカッション」  
チームごとにテーマを決めて行うディスカッションでは、自ら意見を発信し、自分の意見をきちんと聞き、それらを集約して発表するという、今後の研究活動の基本となるスタイルを体験しました。





## 1 大学施設見学ツアー (希望者のみ)

受付を済ませた後、学科別のグループに分かれて、最新の研究機能を備えた『研究実験棟II』や『附属図書館』、学生が所属する学科の講義風景等を見学し、研究内容についての説明を受けます。



## 2 『名城食堂』学食体験 (希望者のみ)

ふだん学生たちが利用している学食で、学生たちと同じようなスタイルで料理をお召し上がりいただきます。  
(ただし、メニューについては当セミナー限定の内容となります)



## 3 全体懇談

後援会長、理工学部長、理工同窓会長のあいさつに続いて、理工学部における最近の就職状況や大学院進学についてお話しします。

### 【就職と進学について】

理工系分野で高度専門職としての活躍を目指すのなら、大学院を経て就職するのが望ましいとの声もあります。学部卒で就職することのメリット・デメリットや大学院進学の意義、進学にあたっての各種サポート等についてご紹介します。



## 4 パネルディスカッション

キャリアセンターの担当者が大学としての就職活動へのサポート体制の数々をご紹介します。続いて、昨今の就職状況に詳しい方をゲストに迎えて話を聞きます。その後、ゲストと学生たちをパネラーとして、『就職活動の本音』を語り合うディスカッションを行います。

昨年は、初めて会場のご父母にも質問を投げかけてお答えいただく双方向性のスタイルを導入し、大好評でした。



## 5 学科別懇談

学科別の会場に移動した後、学科長あいさつに続いて、学科の教育方針や就職状況、大学院進学についての説明を行います。ご父母からの疑問・質問にお答えする時間もご用意しています。



# ご父母のための進路セミナー

## 就職・大学院進学の現状を知る絶好の機会！

理工学部生の進路報告や、最近の就職事情についての解説、就職活動を終えた学生たちによるパネルディスカッションなどで構成された充実のセミナーです。毎年ご参加いただいているご父母も多数います。昨年の開催の様子に沿って、主な内容をご紹介します。



## check!

- 希望者向け特別企画(無料) ※要事前申込
- ① 大学施設見学ツアー
- ② 『名城食堂』学食体験
- 会場特典
- 冊子『ご父母と一緒に考える理工学部生の進路』進呈
- ※ご子弟を取りまく進路の現状を分かりやすくまとめた一冊です。

- 開催の目的
- 就職活動の現状を知る
- 大学院で学ぶ意義を考える
- 学びの施設を見学する
- 日時
- 6月24日(土) 11時～16時50分
- ※大学施設見学ツアー・学食体験をご希望でない場合は13時からご参加ください。
- 会場
- 名城大学天白キャンパス
- 共通講義棟北1階 名城ホール(N101)
- 参加対象者
- 理工学部全学年のご父母



# 就職活動の現状を正しく理解

インターネットもES(エントリーシート)もなかった親世代の就職活動当時と現代では、就職をとりまく環境も学生たちの動きも様変わりしています。親として、子ども世代の就職に不安を覚えるのも無理はありません。そこで当セミナーでは、就職活動全般のタイムスケジュールと大学の就職サポート体制、学生たちの率直な思いなどをお伝えしていきます。

# クリッカーを片手に 双方向コミュニケーション!

昨年は、受付時に資料とともに「クリッカー」をお渡しして、パネルディスカッションの際に活用しました。

ディスカッションの進行役から会場のご父母に本ページ下のような質問をし、その結果を見ながら壇上のパネラーがそれぞれの思いを述べる...というリアルタイムのやりとりは、大いに盛り上がりました。



# panel discussion



ご父母の皆さまにクリッカーでお答えいただきました。

## 質問項目

クリッカー(無線端末)のボタン(番号)を押してお答えいただいた結果は、即時にパソコンで集計されます。

### Q お子さんの学年は

- 1 1年生 108人
- 2 2年生 64人
- 3 3年生 77人
- 4 4年生 19人

### Q 就職先について

- 1 地元の企業に就職してほしい 119人
- 2 国内企業であれば全国 OK 82人
- 3 外資系企業でも可 68人

### Q 職種について

- 1 専攻に則した仕事に就いてほしい 83人
- 2 本人のやりたいことがあればなんでもよい 180人

### Q 就職活動、親として

- 1 最初から最後まで協力したい 73人
- 2 頼ってきたら、相談に乗る 172人
- 3 すべて本人に任せる 7人

### Q 子どもには

- 1 学部で卒業して就職してほしい 76人
- 2 大学院に進学してほしい 41人
- 3 どちらでもよい 141人

### Q 就職活動の流れを

- 1 知っている 28人
- 2 だいたい知っている 152人
- 3 知らない 80人



# 大学院で学ぶ意義を考える

一般には、大学卒業後は就職して社会に出るものと思われがちです。しかし、大学院へ進学するという道もあります。特に理工系においては、企業側が大学院卒を重用する傾向にあることから、就職を見据えた上で大学院に進学する学生が多く存在します。名城大学は大学院理工学研究科を備え、多彩な分野で最先端の研究を展開しています。名城大学大学院では学業成績および人物優秀な学生に対して奨学制度を設けており、セミナー当日は、大学院進学についての説明も行います。

# 学びの施設を見学する

当日は、最新の研究機能を備えた地上4階地下1階建ての『研究実験棟II』をはじめとする各種研究施設の見学ツアーを学科ごとに実施します。研究内容についての説明を聞いたり、教員の指導のもとで院生のサポートを受けて実験に取り組む学部生たちの様子を目にする機会もあります。理工学部生の日常に接することができます。

# interview

## 充実した学びの環境に感心しました。

子どもの入学を機に、一度は大学の環境を見ておこうと考え、参加を決めました。思った以上に施設・設備が充実していますね。大学が社会とつながっているのだと実感しました。就職はまだ先ですが、子ども本人が決めた道を進むよう、応援したいと思っています。

## ご父母の皆さまの声

数学科  
1年生のご父母



機械工学科  
3年生のご父母



## 参加するたびに 気づきや発見があります。

2年連続しての参加です。就職状況は年々変化していますね。キャリアセンターの方は、説明が分かりやすく、パネルディスカッションの司会ぶりもお見事でした。前回参加した時にはなかった「クリッカー」を使っている進行は、すぐ結果が出て面白かったです。

## 充実した内容の一日で、参加して良かったです。

昨年はこうした機会があることに気づかず、今回初めて参加しました。とてもいいセミナーですね。子どもは教員志望なのですが、就職状況について知っておきたいと思っていたので参考になりました。わが子の進路については本人の意志を尊重したいと思います。

数学科  
2年生のご父母



材料機械工学科  
3年生のご父母



## 進路について子どもと話す きっかけになります。

子どもが3年生となり、いよいよ本気で進路について考える時期となったことから、夫婦で参加しました。就職するか大学院に進学するか、今日の話を参考に子どもと話すつもりですが、迷うなら大学院進学の方で考えてもいいかなとも思っています。

## セミナー参加お申込方法

出席はがき、またはホームページよりお申込ください。

●出席はがき/本誌に同封されているパンフレット「ご父母のための進路セミナー」の受講申込はがきに必要事項をご記入の上、申込締切期日までに投函してください。

●理工学部後援会ホームページ/「ご父母のための進路セミナー」の受講参加申込専用フォームに必要事項をご記入の上、送信してください。

※開催会場へのアクセスなど、詳しくは後援会ホームページまたはパンフレットをご覧ください。





4 **学科別懇談**  
14:00



学科別に分かれて、教務関係や就職、大学院進学などについての説明を受けます。

1 **受付開始**  
12:30～



受付で資料などを受け取って全体懇談会場へ向かいます。

5 **個別懇談  
待合懇談** 14:30



別室にて個別相談を行います。個別相談の順番が来るまで学科別懇談会場では学科全体についてのご父母からの質問に先生が丁寧に答えてくれます。

2 **理工学部紹介  
DVD上映** 13:00



映像を通して、各学科の研究内容や学内施設、先生方のご活躍ぶりや学生たちの学部での日常の様子を知ることができます。

6 **懇親パーティー**  
16:40～17:50



和やかな雰囲気の中で、先生とご父母が飲食をともにしながら自由に話の花を咲かせます。

3 **全体懇談**  
13:40



後援会長のあいさつに続いて、学部長から理工学部の研究活動の現状や施設の充実についてほか、名城大学並びに理工学部全体の説明があります。

① 受付開始 9:30～  
② 理工学部紹介DVD上映 10:00  
③ 全体懇談 10:40  
④ 個別懇談・待合懇談 11:20  
⑤ 昼食会 13:00～14:00






全体の流れおよび内容は、各地区とも名古屋会場と共通です。理工学部とご子弟の現状についてご父母の皆さまからお気軽にご質問・ご相談いただけます。名古屋会場より参加者数が少ない分、和やかな雰囲気、年々、ご夫婦でのご参加が増えていきます。

地区懇談会

先生方と、じっくり話す  
貴重な一日

学部の先生方の協力を得て実施している地区懇談会は、ご父母の皆さまと先生方が直接お話しいただくことができる貴重な機会です。名古屋会場をはじめ全国各地に会場を設けて開催しますので、ぜひご参加ください。



地区懇談会とは

教務・就職・進学について各担当の先生より詳しくご説明します。

ご子弟の成績や進路、学生生活についてご相談いただき、きめ細やかなご説明と適切なアドバイスでお応えします。

大学の状況や進路などについて疑問や心配事を先生や他のご父母の皆さまと共に問題解決していきます。





先生方にとっても、個別懇談や懇親パーティーを通してご父母の皆さまと直にお話をする良い機会となっています。

## 先生方の声

成績や進路についてご相談いただけます。

ご父母からのご質問内容は、やはり進級や就職に関するものが多くですね。こうした機会にぜひ遠慮なくお聞きになって、ご確認いただければと思います。また地区懇談会は、同じ立場のご父母同士でお話をする場としても良いと思います。



**大学についてご理解いただく良い機会。**  
理工学部についてご父母にご理解いただく上で、こうした交流の機会があるのは良いことです。学生を指導する我々にとっても、親御さんの気持ちを知る貴重な場であり、「学生をより良い方向へ導きたい気持ちと同じ」と再認識できます。



3組のご父母の皆さまにお話をお聞かせいただきました。

## ご父母の声

**先生からの親身なご指導がありがたい。**  
先生方が話しやすい雰囲気なので、安心できました。個別懇談では、わが子の成績や現状について具体的に教えていただき、卒業に向けて単位を確実に取得するようアドバイスをいただきました。就職支援や大学院への進学など、子どもの将来に向けて考える良い機会になったと思います。



4年生の  
ご父母  
数学科

**さまざまな情報が共有できるのが良い。**  
学科別懇談の席で、参加のご父母から「うちの子は「コミュニケーション力」が足りなくて...」という声があり、「わが子だけじゃない」と妙な安心感がありました(笑)。個別懇談では先生に何でも聞けて、ありがたかったです。自宅に送られてくる子どもの成績表の見方や成績の現状が、よく分かりました。



2年生の  
ご父母  
応用化学科

**参考になったので来年もぜひ参加したい。**

わが子の学校生活や卒業後の進路について知る良い機会だと思いい参加しました。先生方のお話はもちろん、学科別懇談での3、4年生のご父母からの質問や懇親パーティーでの父母同士の話からも参考になることが多く、この先の就職も気になるので、来年もぜひ参加しようと思っています。



1年生の  
ご父母  
交通機械工学科

# 会場と日程のご案内 名古屋会場13:00より開催 地方会場10:00より開催

**10月8日 13:00**  
材料機能工学科  
環境創造学科  
建築学科  
名古屋栄東急REIホテル  
名古屋市中区栄3丁目1-8  
Tel.052-251-0109  
「栄駅」8番出口より徒歩約8分  
「伏見駅」4番出口より徒歩約8分

**10月15日 13:00**  
数学科・情報工学科・電気電子工学科  
応用化学科・機械工学科  
10月22日 13:00  
交通機械工学科・メカトロニクス工学科  
社会基盤デザイン工学科  
ホテル名古屋ガーデンパレス  
名古屋市中区錦3丁目11-13  
Tel.052-957-1022  
「栄駅」1番出口より徒歩約5分  
「伏見駅」1番出口より徒歩約8分

**福岡会場 9月23日 10:00**  
ホテルクリオコート博多  
福岡県福岡市博多区博多駅前中央街5-3  
Tel.092-472-1111

**津会場 9月30日 10:00**  
ホテルグリーンパーク津  
三重県津市羽所町700  
Tel.059-213-2111

**浜松会場 10月1日 10:00**  
ホテルクラウンパレス浜松  
静岡県浜松市中区板屋町110-17  
Tel.053-452-5111

**大垣会場 10月7日 10:00**  
ロワジールホテル大垣  
岐阜県大垣市宮町1-13  
Tel.0584-81-0111

**松本会場 10月9日 10:00**  
ホテルモンターニュ松本  
長野県松本市中上3-2  
Tel.0263-35-6480

**富山会場 10月21日 10:00**  
オークスカナルパークホテル富山  
富山県富山市牛島町11-1  
Tel.076-433-1122 (0120-372-555)

**岡山会場 10月28日 10:00**  
TKP岡山カンファレンスセンター  
岡山県岡山市北区下石井1-3-12 アパホテル2F  
Tel.086-235-5733

**地区懇談会参加お申込方法** 出席はがき、またはホームページよりお申込ください。

- 出席はがき  
8月初旬に郵送される「案内パンフレット」の申込はがきに必要事項をご記入の上、申込締切期日までに投函してください。
- 理工学部後援会ホームページ  
参加申込専用フォームに必要事項をご記入の上、送信してください。(8月初旬より受付)



## 家庭教育支援セミナー

# 青年期の心の理解を深める

ご父母の皆さまに、家庭教育の重要性について再確認していただくとともに、ご子弟の悩みごとに対応する能力を身につけていただくことを目的として、各地での講演会や、学内での心理学講座を実施します。ぜひともご活用ください。



## lecture



### セミナー参加お申込方法

出席はがき、またはホームページよりお申込ください。

- **出席はがき** / 本誌に同封されている各パンフレット、「家庭教育支援セミナー 講演会」または「家庭に活かす心理学講座」の受講申込はがきに必要事項をご記入の上、申込締切期日までに投函してください。
  - **理工学部後援会ホームページ** / 「家庭教育支援セミナー 講演会」または「家庭に活かす心理学講座」の各受講参加申込専用フォームに必要事項をご記入の上、送信してください。
- ※各開催会場やアクセスなど、詳しくは後援会ホームページまたは各パンフレットをご覧ください。

## 家庭教育支援セミナー 講演会

優秀な講師を全国各地に派遣し、気軽な講演会、フリーディスカッションなどを通じて家庭教育の重要性を認識していただき、ご父母の皆さまが身近な相談役としてご子弟の悩みなどに対応する能力を身につけていただくことを目的としています。このセミナーは全国の大学に先駆けて名城大学が開講し、文部科学省、地方自治体、マスコミなども大変注目しており、毎年多くのご父母の方が参加しています。講演会は何回でも受講できますので、よりいっそう内容が深まり、参考にしていただけます。

名古屋会場 7月16日(日) 名城大学 ナゴヤドーム前キャンパス 西館2階 レセプションホール

講演テーマ 発達障害児の視覚認知特性と発達支援



和氣洋美 先生

神奈川大学  
名誉教授  
博士 / 医学  
専門 / 知覚認知心理学  
高齢者障害者福祉心理学

浜松会場 7月29日(土) サーラシティ浜松2階 終

名古屋会場 8月6日(日) 名城大学 ナゴヤドーム前キャンパス 西館2階 レセプションホール

講演テーマ 親子関係の生涯発達



平石賢二 先生

名古屋大学大学院  
教育発達科学研究科  
教授  
博士 / 教育心理学  
専門 / 生涯発達心理学

名古屋会場 7月30日(日) 名城大学 ナゴヤドーム前キャンパス 西館2階 レセプションホール

津会場 8月19日(土) 三重県教育文化会館 第3会議室

講演テーマ 対人関係を科学する



吉田俊和 先生

岐阜聖徳学園大学  
教育学部 教授  
名城大学 名誉教授  
博士 / 教育心理学  
専門 / 社会心理学

- **講演** 13:00~14:20
- **質疑応答・フリーディスカッション** 14:30~15:10
- **受講料** 無料

## 家庭に活かす 心理学講座

当講座は心理学を中心とした内容をご父母の皆さまにご提供し、それをご家庭に活かしていただき、より一層の教育力向上を目指す目的で開設されました。心理学については初学者にもわかりやすく、初歩から解説します。心理学等の学問的内容の理解をし、家庭教育に活用していただくことは重要ですが、さらにこの講座を受講したことにより、ご父母世代の「自分探し」、また子育てが終わってからの、これから続いていく質の高い人生への手掛かりとしていただけます。

名城大学天白キャンパス

11号館 504教室・第一会議室など

平成29年7月~平成30年3月 全20回

### ●担当講師

#### 鈴木亮子 先生

鈴鹿医療科学大学 保健衛生学部 医療福祉学科 准教授

#### 吉住隆弘 先生

中部大学 人文学部 心理学科 准教授

#### 吉田琢哉 先生

岐阜聖徳学園大学 教育学部 准教授

#### 早川由美 先生

名古屋工業大学 学生相談室カウンセラー

#### 川島一晃 先生

皇學館大学 文学部 コミュニケーション学科 助教

#### 信太寿理 先生

愛知淑徳大学 非常勤講師

#### 清水麻莉子 先生

中部大学 非常勤講師

#### 吉本直美 先生

名城大学 非常勤講師

● **受講時間** 各回 13:00~16:15(休憩15分)

● **定員** 50名(一度当講座を受講されたご父母はお申込できません)

● **受講料** 無料(別途教材費がかかる場合があります)





学術関係

|             |                      |                       |
|-------------|----------------------|-----------------------|
| 数学科         | 3年 岸田 崇裕<br>3年 鈴木 文哉 | 3年 佐藤 修一<br>3年 龍田 隆誠  |
| 情報工学科       | 3年 大島 朱音<br>3年 林 由英  | 3年 鴨下 友馬<br>3年 平田 秀平  |
| 電気電子工学科     | 3年 市川 翼<br>3年 平松 侑樹  | 3年 後藤 和哉<br>3年 廣田 奈緒美 |
| 材料機能工学科     | 3年 石本 聖治<br>3年 平岩 恵  | 3年 寺澤 美月<br>3年 横井 里奈  |
| 応用化学科       | 3年 磯貝 昌也<br>3年 山口 輝倫 | 3年 丹羽 悦子<br>3年 横井 溪太郎 |
| 機械工学科       | 3年 山副 樹<br>3年 矢敷 啓太  | 3年 豊田 晋也<br>3年 小木曾 里沙 |
| 交通機械工学科     | 3年 伊藤 亮太<br>3年 近田 侑生 | 3年 金子 慶保<br>3年 田口 航   |
| メカトロニクス工学科  | 3年 城山 義浩<br>3年 辻 大靖  | 3年 高岡 歩美<br>3年 十塚 圭佑  |
| 社会基盤デザイン工学科 | 3年 岩佐 直哉<br>3年 早川 伯彦 | 3年 中村 汐里<br>3年 吉田 聡一郎 |
| 環境創造学科      | 3年 田口 結美<br>3年 前田 真里 | 3年 鈴木 耀<br>3年 中川 諒穂   |
| 建築学科        | 3年 市川 友己<br>3年 酒井 理帆 | 3年 伊藤 芳季<br>3年 竹中 智美  |

スポーツ関係

- 舞踏研究会  
交通機械工学科2年 岡野 真治  
第52回 中部日本学生競技ダンス選手権大会 種目別戦 団体戦の部 クイック 優勝
- ヨット部  
交通機械工学科3年 早川 裕文  
中部学生オープンレガッタ 優勝
- スケート部  
材料機能工学科2年 砂古口 藍子  
第89回 日本学生氷上競技選手権大会 アイスダンス準選手権 優勝
- 女子駅伝部  
数学科4年 湯澤 ほのか  
第34回 全日本大学女子駅伝対校選手権大会 3位  
体育会女子駅伝部主将として著しく部の発展に貢献  
(活躍の様子は6ページをご覧ください)

文化関係

- 将棋部  
春季中部学生将棋団体戦 優勝  
秋季中部学生将棋団体戦 優勝
- 平成28年度 電気・電子・情報関係学会 東海支部連合大会  
電気学会B賞 情報工学科4年 金松 友哉
- エコノパワークラブ  
本田宗一郎杯Honda エコマイレージチャレンジ2016 第36回全国大会 グループⅢ(大学・短大・高専・専門学校生クラス) 準優勝
- 第5回 全国学生英語プレゼンテーションコンテスト  
奨励賞 材料機能工学科3年 平岩 恵



名城大学理工学部後援会 学生奨励制度表彰規定

- 1 目的  
この制度は、名城大学理工学部の学生で、人物・学業共に、優れた者あるいはスポーツ並びに文化活動において、大学の名声をともに広めた者に対し、その功績をたたえとともに、本人をはじめ他の学生の今後の励みになることを念願して設立する。
- 2 適用範囲  
名城大学理工学部に在籍する学生。
- 3 審査方法及び機関  
理工学部長の推薦により、理工学部後援会福利厚生委員会において審議決定する。
- 4 審議時期  
適時
- 5 奨励方法  
表彰状並びに副賞(記念品)とする。
- 6 ① 表彰者選出基準

| 区分     | 資格     | 基準   | 年間引当数   |
|--------|--------|--|---------|
| 学術関係   | 個人     | 3・4学年に在籍する者のうち、人物・学業共に優秀な学生で各学科ごとに推薦された者。  | 1学科4名以内 |
| スポーツ関係 | 個人又は団体 | 一、名城大学体育運動部に所属し、東海大学選手権大会又はリーグ戦等に於いて優勝したチーム。又は個人。<br>二、全国的規模における競技会に於いて3位以上に相当する賞を受けた個人又は団体。<br>三、前二・号優勝者以外で個人賞として特別に表彰された者。<br>四、体育会運動部主将として著しく部の発展に貢献した者。但し在学中一回限りとする。 | 若干名     |
| 文化関係   | 個人又は団体 | 一、名城大学文化クラブに所属し、東海又は中部大会以上の競技会に於いて優勝した個人又は団体。<br>二、前号以外で、全国的規模における競技会に於いて3位以上に相当する賞を受けた個人又は団体。   | 若干名     |

- ② 上記区分以外で、会長若しくは学部長の推薦により、後援会福利厚生委員会が妥当と認められた者に対しても、上記区分に該当する者と同様に表彰することができる。
- ③ 前項①②共、後援会費納入会員の子弟とする。
- 7 表彰方法  
表彰者氏名及び該当事項を公示し、後援会委員会の席上において表彰する。
- 8 施行期日  
昭和57年4月1日付をもって施行する。  
附則 平成5年10月21日 一部改正 平成10年3月24日 一部改正 平成11年6月4日 一部改正 平成25年1月30日 一部改正 以上

学生奨励表彰式

日々、積み重ねた  
努力の結実を讃えて



謝辞を述べる  
平岩 恵さん

理工学部後援会による学生奨励制度とは、対象の年度内に学術・スポーツ・文化の各分野において、めざましい活躍をしたと認められる理工学部在籍の学生たちの努力と成果を表彰するものです。平成28年度は50名・2団体が選ばれ、平成29年2月28日に表彰式が行われました。

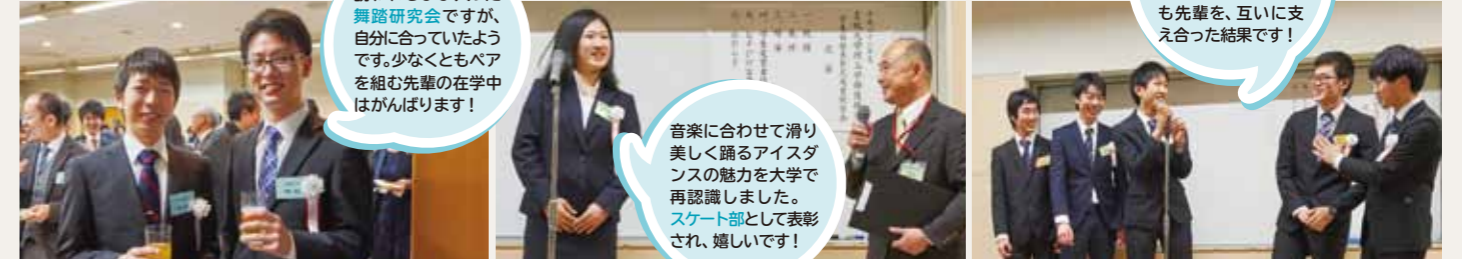
ceremony



誘われるまま入った舞踏研究会ですが、自分に合っていたようです。少なくともペアを組む先輩の在学中はがんばります！

将棋部は自由な雰囲気なので、気負いなく勝負に挑めます。先輩は後輩を、後輩も先輩を、互いに支え合った結果です！

音楽に合わせて美しく踊るアイスダンスの魅力が大学で再認識しました。スケート部として表彰され、嬉しいです！





## こんにちは。理工学部後援会事務局です。

理工学部後援会事務局は常勤職員3名が常駐しています。事務局は11号館2階(11-221室)にあります。後援会に対して、ご意見などありましたら、事務局までお気軽にご連絡ください。また、ご子弟の学生生活等について、不安などありましたらご相談に応じます。家計が急変された方もご遠慮なくご相談ください。なお、ご相談内容については秘密厳守いたしますので、ご安心ください。



**林友美** 契約職員  
後援会事務局には、学生さんや先生方ほか、様々な方が訪ねていらつやいます。皆さまのお役に立てるよう、仕事に励む日々です。4年ほど前から趣味のひとつとして書道に取り組んでおり、筆を手に、心を鎮めていきます。その一方、高校生の娘と、劇団四季のミュージカルを観て心躍らせるひとときも、大切なリフレッシュの時間です。  
〔主な担当〕 ●事務全般(事務補助業務)

**吉本直美** 会計幹事(事務局次長)  
後援会業務以外にも研究者としての一面も持っています。人間科学博士も取得し、年に数回の学会発表もこなし、さらに多くの研究会にも参加しています。自己研鑽に忙しいながらも、趣味の時間も大切に、海外旅行をするなどエネルギーに活動しています。  
〔主な担当〕 ●後援会会計および事務全般 ●地区懇談会・育英給費生制度・後援会寄贈図書・学生奨励表彰制度・名簿管理など

**堀一貴** 事務局長  
人と話すこと、人と関わるのが大好きな、明るい性格です。笑うことが第一に考え、落語や漫才などを聴いて、皆さまに笑ってもらえる語術を勉強しています。吹奏楽については、名城大学ではおそろしく一番詳しいという自負もあります。aikofanであり、ライブの時に派手に踊っている姿は普段からは想像できません。また熱心な中日ドラゴンズのファンです。  
〔主な担当〕 ●後援会事務全般 ●ホームページ・理工学部紹介DVD・会報誌Scopeなどの広報関係 ●フレッシュマンセミナー・ご父母のための進路セミナー・家庭教育支援セミナーなど

Tel&Fax 052-831-9214 jimukyoku@meijo-rikokoen.jp

分からないこと、気になること、心配事はすぐこちらへご相談ください。

|   |   |   |   |  |
|---|---|---|---|--|
| ご父母の相談窓口  | 学生の健康相談<br>こころの相談   | 学生の進路<br>キャリアプラン<br>の相談   | 成績・履修などの<br>相談  | 奨学金などの<br>相談   |
| 理工学部後援会事務局<br>Tel 052-831-9214 (直通)<br>「11号館」2階<br>月～金曜日 9:00～17:30 | 保健センター<br>Tel 052-838-2031 (直通)<br>「本部棟」1階<br>月～金曜日 8:50～21:00<br>(土曜日は17:20まで) | キャリアセンター<br>Tel 052-838-2040 (直通)<br>「タワー75」4階<br>月～金曜日 8:50～18:30<br>(土曜日は17:20まで) | 学務センター<br>(理工学部)<br>Tel 052-838-2023 (直通)<br>「タワー75」3階<br>月～金曜日 8:50～18:30<br>(土曜日は17:20まで) | 学務センター<br>(生活支援G)<br>Tel 052-838-2028 (直通)<br>「タワー75」4階<br>月～金曜日 8:50～18:30<br>(土曜日は17:20まで) |

## Scope読者の皆さまに抽選でプレゼント! 応募締切は6月30日

Scope44号の表紙絵を描いていただいたまつやまたかさんのオリジナルパスケースを抽選で3名様にプレゼントいたします。ご応募は後援会ホームページの応募フォームに必要事項をご記入の上、送信してください。皆さまのご応募をお待ちしています。

(当選者の発表は、パスケースの発送をもって代えさせていただきます。なお、絵柄は選べませんのでご了承ください。)



まつやまたかし



岐阜県関市在住のイラストレーター。鳥山明氏の二代目アシスタントという経歴を持つ。雑誌「Daytona」連載や挿絵本「トムとジェリーをさがせ! びっくりタウンは大きすぎ」が人気。オリジナルのモーターパニックシリーズの個展も好評。廃材アート「共鳴ロジック」のメンバーでもあり巨大な作品を作っている。http://art-front.com/

理工学部後援会ホームページ <http://www.meijo-rikokoen.jp>

## その他の活動紹介

# 学生とご父母を 多面的にサポート

理工学部後援会では、本誌面でご紹介してきた諸活動のほか、様々な支援・援助活動を行っています。



平成29年度 理工学部後援会 定期総会



理工学部後援会 ホームページ



理工学部紹介DVDと年1回発行される会報誌「Scope」



平成28年度 卒業パーティー

### 理工学部後援会 定期総会の開催

平成29年4月1日(土)の入学式後、天白キャンパス共通講義棟(東)304教室において、理工学部後援会定期総会が開催されました。議案はすべて承認され、平成29年度会長には寺西正明氏(機械工学科4年ご父母)が選出されました。

### 理工学部後援会 ホームページの制作

後援会活動や大学についての最新の情報を迅速にご父母の皆さまに提供するため、ホームページを制作しております。「ご父母のための進路セミナー」「地区懇談会」「家庭教育支援セミナー」へのご参加のお申込みもホームページから行うことができますので、ぜひご利用ください。また、「フォトアルバム」には活動の様子を掲載していますので一度ご覧ください。

### 理工学部紹介DVDを制作

「名城大学理工学部紹介DVD」を制作し、毎年開催される地区懇談会などで上映しています。

### 会報誌「Scope」の発行

後援会活動の紹介、キャンパス、ご子弟の様子、ご父母の皆さまの声などを掲載しています。

### 難関資格取得者に記念品を贈呈

学生が取得した資格の中で、難関資格を取得した学生に対し記念品を贈呈します。

### TOEIC® 受験援助

12月に本学にて実施するTOEIC-IP試験について、理工学部3年生は全員無料で受験できます。

### 卒業記念品贈呈・卒業パーティー援助

会員ご子弟の卒業生全員に対し記念品を贈呈しています。

### 学会発表の援助

学会や研究会で発表する学生へ旅費や参加費を援助しています。

### 学生用図書への援助

学生の勉強の参考となる図書の購入を援助しています。